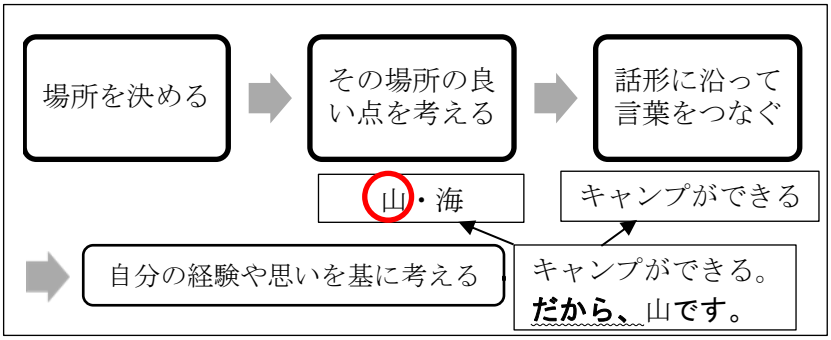
実践記録（小１・国語）

１　ねらい

自分の経験や思いを基に、相手に情報をはっきりと伝えることができる。

２　手立て

【名札を用いた立場の視覚化】



【「～だから」の言葉使って考えをまとめた形】

３　実践の様子

はじめに、「先生は旅行に行きたいです。みんながお勧めするのは海かな、山かな。」と児童に問い掛けると、「絶対、海がいい。」や「ぼくは山かな。」など、次々に自分の思いを話し始めた。そこで、話形が印刷されたワークシートを配り、海か山のどちらを勧めるのか、その良い点はどこなのかを考えて記入させた。また、その中から教師に一番伝えたいことを一つ選ばせた。

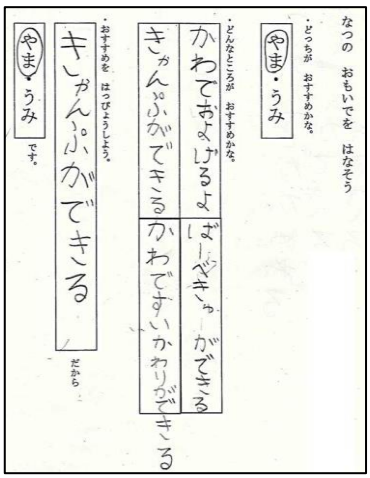
発表の前に、海と山のイラストが貼られた黒板に名札を貼り、その児童がどちらの場所を勧めているのかを、誰が見ても分かるようにした。

次に、教師に対して自分の意見を発表させた。「きれいだから、海です。」や「キャンプファイヤーができる。だから山です。」などと、それぞれが経験したことを踏まえた意見が多く出された。

中には、「先生はお肉が好きだから、バーベキューができる山です。」や「先生の子どもと一緒に泳げるから、海です。」などと、伝える相手である教師を意識した意見も出された。それらの発表を聞いていた児童からは「確かにそうだね。」などの声が挙がった。

発表後、最終的に自分のお勧めする場所をワークシートに記入させたところ、友達が発表した意見も理由に付け加えている児童が多く見られた。

【名札を使って、自分の立場を示す様子】



【児童のワークシート】

４　成果と課題

○　伝える相手を教師にしたことで、相手を意識して発表することができた。

○　自分の立場をはっきりさせるために「～だから」という形で発表するようにしたことで、相手に分かりやすく考えを伝えることができた。

○　名札を使い、それぞれの立場をはっきりさせたことで数の優劣が分かり、児童の「自分の意見を聞いて、もっと良さを知ってほしい。」という意欲が高まった。

●　教師の指示のもとに学級全体で話し合いを行ったので、児童が主体的に活動する場面が少なかった。話し合いをする人数を減らしていき、グループでの話し合いができるようにすることで、児童がより主体的に自分の考えを発信できるようにしていきたい。